

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 29 年度相模原市子ども・子育て会議 第 1 回相模原市幼児教育・保育ガイドライン策定部会				
事務局 (担当課)		こども・若者政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 1 6 (直通)				
開催日時		平成 29 年 8 月 2 4 日 (木) 午後 1 時 3 0 分 ~ 3 時 5 0 分				
開催場所		市役所会議室棟 1 階 第 1 会議室				
出席者	委員	3 人 (別紙のとおり)				
	その他	4 人 (別紙のとおり)				
	事務局	9 人 (こども・若者政策課職員 5 名、保育課職員 4 名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 部会長の選出 3. 会議の公開について 4. 議題 (1) 幼児教育・保育を取り巻く状況について (2) 今後の策定の流れについて (3) 全園アンケートについて 5. その他 6. 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1. 開 会

2. 部会長の選出

相模原市子ども・子育て会議条例第7条第3項に基づき、委員の互選により、部会長に岡委員が選出された。

3. 会議の公開について

事務局から会議の公開について説明を行った。

相模原市幼児教育・保育ガイドライン策定部会については、原則公開とし、個人情報を取り扱う場合等は、会議で協議を行うこととした。

4. 議題

(1) 幼児教育・保育を取り巻く状況について

資料1のところ、「保育」という言葉が抜けてしまっているところがあるが、本策定部会が3歳以上の幼児のみを対象としていると捉えられてしまわないか。

資料の文言については、指摘のとおりであるので、逐次修正を行う。

本策定部会の対象とする子どもとは、基本的には就学前の0歳から6歳の全ての子どもたちということによいか。

対象については、その認識で考えている。

本策定部会で求められることは、相模原市として就学前の子どもたちや保護者に対し、教育保育の質を担保し、より向上させていくために、どのようなことが必要なのかといったガイドラインを作成し、その実現のために保育者が身につけておくべき知識や技能を修得する研修体系を構築することである。また、幼児教育アドバイザーの養成や、養成プログラムを構築していく体制の整備についても考えていかなければならない。その際、幼児教育アドバイザーの設定方法や、人員の構成については、よく検討をしなければならない。

幼児教育アドバイザーは、直接園を訪問してアドバイスをするだけでなく、研修をコーディネートする役割もあるので、そういった視点を持つ必要があると思う。

最終的には、国が定義している幼児教育センターの機能を、市の機能として設けることを考えている。センターの人員構成については、今後検討していく。

乳幼児期と小学校教育のカリキュラムマネジメントは異なっているので、混乱が生じないように、相模原市として幼児教育・保育をこう考えているという文言をガイドラインの中に明記する必要がある。

幼保小連携推進協議会とは情報共有をしっかりと行う必要がある。また、幼児期の終わりまでに育て欲しい姿については、小学校側とよくすり合わせをする必要がある。

現在、教育委員会で設置している接続期カリキュラムの部会で、小学校側とは認識のすり合わせをしているところである。

接続期カリキュラムの具体的な事例として、幼児期に育てている 10 の姿が生活科に収斂されるということが、このようなことですというものを指し示すと、双方に理解可能となるのでは。

幼児期に育てた力が、どのように小学校以降の学びにつながっていくのかという事例は載せていく予定である。

幼児教育センターの設置の時期は決まっているのか。

現行の子ども・子育て支援事業計画の計画年度が平成 31 年度で終了するので、次期計画で位置付けていくことを考えている。

乳幼児期の教育保育の先進的な取り組みを行っている高知県において、学力低下や不登校、校内暴力の問題が多発していたときに、その問題を解消するために必要な取り組みとして、ガイドラインの策定がスタートしたというような経緯もあることから、相模原市としての現状や、計画年度の切り替わりの時期ということを踏まえると、良いタイミングだと思う。

相模原市として提案していくときには、現状の課題等を包括的に解消することができるようなものを構築していければよいと思う。

(2) 今後の策定の流れについて、全園アンケートについて

研修体系を構築していく際の参考とするためにも、経験年数が何年目の先生が何名いるかということアンケートの項目に入れた方がよい。また、研修のキャリアに関する年次の区切り方については、そのアンケート結果を踏まえて考えた方がよい。

基本研修と専門研修との違いは何か。

専門研修は、他の保育者に対して助言・指導をすることができるような内容になっており、基本研修については経験年数に応じた内容を想定している。内容については、意見をいただきたい。

中堅ステージにおいて、マネジメントだけではなく、保育の内容についても学んでいく必要があるので、専門研修のカリキュラムをキャリアアップ研修として位置付けているということによいか。また、時間数の配分等については、今後検討が必要と考える。

そういったかたちを想定している。今後、時間数の配分等については調整可能であるかどうかを含め検討していく。

今回策定するものは、処遇改善のキャリアアップ研修だけではなく、相模原市のガイドラインを実現するために必要だと思われる研修の項目が、育成別に並んでいるということでしょうか。

そうである。

この部会においては、ガイドラインを策定し、それと整合性を図りながら研修体系を作っていく。また、それと平行するかたちでキャリアアップ研修の準備をしていく。現在行っている研修について、活用できるものがあれば活用していきたいので、各団体で行っている研修で該当するようなものがあれば、情報提供をするということでしょうか。

そうである。

キャリアアップ研修については、今まで研修を受けてこなかった園についても受けさせることができるというメリットがある。相模原市と、各団体とが協力をして、質の高い研修を相模原市で受けることができる体制を整えていくことが必要である。

研修時間の15時間は、座学と限定されているわけではないので、各団体が持っている情報を市と共有することが必要である。

専門リーダーは、4分野の研修を受けるとということでしょうか。そうすると、1分野15時間で、全部で60時間必要になることになるが。

厚生労働省のイメージだと、1年で1分野ずつ修得していくイメージと聞いている。

今まで受けた研修については、県に対して研修履歴として認めるように要請をすると、更なるスキル向上が図れるのではないかと。

過去に受けた研修が認められるかどうかについては県に確認をし、検討する。

5. その他

(1) 次回開催日について

次回の策定部会は、平成29年11月13日(月)とする。

6. 閉 会

幼児教育・保育ガイドライン策定部会委員名簿（五十音順）

氏 名	所 属 等	出 欠
あさひな たろう 朝比奈 太 郎	相模原市私立保育園園長会	出席
あんど う さなえ 安 藤 抄 苗	公募市民	欠席
おおにし てるよし 大 西 輝 佳	相模原市立小中学校長会	欠席
おか けん 岡 健	大妻女子大学家政学部児童学科教授	出席
や ぎ はじめ 八 木 肇	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席

部会長

幼児教育・保育ガイドライン策定部会関係者名簿(五十音順)

氏 名	所 属 等	出 欠
いわもと つとむ 岩本 勉	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	欠席
おかべ なおき 岡部 尚紀	相模原市教育局総合学習センター担当課長	出席
かみお みかこ 神尾 美香子	相模原市私立保育園園長会	出席
さいとう まさのり 齋藤 正典	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席
えんどう みちこ 遠藤 美智子	相模原市陽光台保育園園長	出席
そのだ いわお 園田 巖	東京都市大学人間科学部講師	欠席